

## 第6回 ふくまる夢たまごセミナー

日時 令和2年11月20日(金)18:00~20:00

場所 市庁舎7階大会議室

内容 講話 先輩に学ぼうⅢ

「あたりまえ」

講師

池田市立渋谷中学校教諭

奥山 佳奈 先生

「先輩に学ぼうⅢ」

講師

池田市立石橋南小学校教諭

梶田 幸三郎 先生

第6回「ふくまる夢たまごセミナー」は、「先輩に学ぼう」シリーズ第3弾(PARTⅢ)として、渋谷中学校から奥山佳奈先生、石橋南小学校から梶田幸三郎先生の2名の先生方に来ていただき、ご自身の取組みや経験談を話していただきました。



奥山先生は、講話の初めに自己紹介をした後「すごろくトーク」を行い、緊張していた塾生を見事にアイスブレイクしてくれました。

その後、「右手を前に出して下さい。」と塾生に右手を出してもらい、教えてもらった話としてそれぞれの指の説明を丁寧にしてくださいました。「なるほど」と頷く塾生たち。ところが・・・。そのお話は全て「ウソ」だったのです。

「なんでみなさん信じたんでしょう？」と奥山先生はさらに問いかけ「教師だから。先生だから。という怖さ」についてお話をしてくれました。

そして、私を変えた映像ということで、様々なカップルや家族が出て来る映



像を紹介してくれました。奥山先生はこの映像をみて自分の思っている当たり前が世間の当たり前ではないこと。自分の当たり前=全ての子ども達の当たり前ではないことに気が付いたそうです。そのためには、常にアンテナを高く張り、良い意味で「自分の当たり前をぶっ壊す」ことが大切であると話されました。そうすることで「子どもたちと一緒に学ぶ、一緒に成長する」ことに繋がっていくとお話を締められました。

石橋南小学校の梶田先生は、ふくまる教志塾の1期生で3年間横浜で教師をした後、池田市に勤められて5年目を迎えています。

「これからお話する内容は、あくまで個人の見解で、これがベストではありません。みなさんそれぞれのやり方を見つけて下さい。」と子ども一人ひとりを尊重し温かく優しく見守っている梶田先生らしい言葉でお話が始まりました。



もしも、みなさんが最高の料理を作ろうと思ったら、どんなものが必要だと思いますか？ ということで学校現場を料理に例えわかりやすく説明してくれました。

- ・ 食材＝教材（国・社・算・理・・・）
- ・ レシピ＝指導法（指導書）
- ・ 作る技術＝授業技術
- ・ 調理方法＝どのような授業をするか
- ・ 料理を出す相手＝子どもたちの事

学年・クラスには、たくさん子どもたちがいること、学級づくりの中で見えてくること、「笑顔」で子どもたちと接すること、子どもたちの出すサインやアドバルーンに気づくこと、子どもに言っていることを保護者の前でも言えるのか？、クラスの(先生)のルールのこと等たくさんのお話をしてくれました。特に学級通信については、梶田先生が毎日出していると聞き、塾生たちは非常に驚いていました。

後半は前半にも増して熱を込めて話す梶田先生の姿に「社会科が大好き！！」という熱い思いがこちらにも伝わってきました。社会科は足でかせぐということで、「子どもたちの～たい！」を引き出すために、梶田先生が楽しみながら社会科の教材づくりの様子を伝えてくれました。

## <塾生の感想から>

- これから色々なものに触れて自分の価値観や考え方を変えていきたい。自分の当たり前は周りの当たり前でないことが改めてわかった。自分が教員になった時に一人ひとりの当たり前に寄り添うことができるように様々な子どもへの理解を深めていきたい。



- 子どもを主語にして、その子どもの過去、現在、未来を考えると、今叱るべきなのか、そうではないのか。子どもの背景も考えないといけないと思いました。来年度の教員採用試験に向けて考えさせられました。
- 他者のことを考えること、日常のことについて改めて考えなおすことがより多くのことを知れ、より子どもたちに返せると学ぶことができました。

- 日々、いろんな物事にアンテナを張ることで情報をアップデートすることはとても大切なことだと思います。自分の周りにもマイノリティーの方や外国人の友人もいるので+ $\alpha$ の知識を得ることでもっと寄り添うことができると感じました。

